

ヴィクトール・フランクルによる人間性心理学と自己超越性



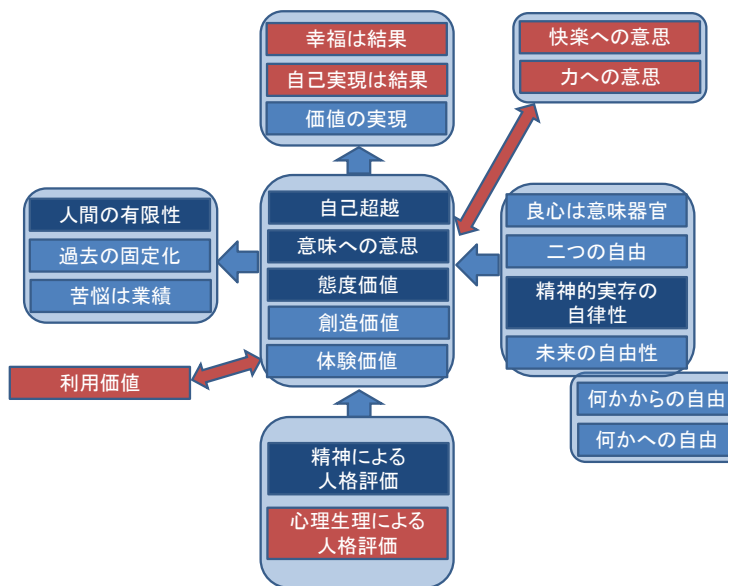
CNCP 常務理事 **皆川 勝**
 (東京都市大学副学長)

CNCP を通じて NPO 活動をされている多くの方々知己を得て、学ぶことが多いと、常々感じておりました。あのエネルギーはどこから出るのだろうかといつも感じておりました。そんな時、フランクルの人間性心理学に出会いました。

フランクルは、図に示すように、人生の意味は、「意味への意思」を持って、態度・創造・体験の価値を生むことにあり、特に自己超越的に態度価値を実現することにより、自己実現あるいは幸福が結果として得られるとしています。自己超越とは自分自身の欲求と関わらないことを意味しており、利他性と通ずるものです。

彼は、他の動物が利用価値をもつものに対して、人間に利用価値を求めるべきではないとし、良心という意味器官を用いて、自律的に束縛されず行動を起こすことができる人間の人格的価値の重要性を説きました。人間は「何かからの自由」と「何かへの自由」という二つの自由性を持っており、前者は束縛からの自由を、後者は行動への自由を意味しています。特に後者の自由は良心に基づいて行動することの自由性であり、これこそが人間の人間たるゆえんであるとされています。自由性を有する行動により、未来は選択され得るのです。

また、人生の意味は、人により、日により、時間によって異なってくるものであり、重要なことは人生一般の意味ではなく、各人の人生の個々の瞬間における態度決定などによる意味であるとされています。また、快樂への意志や力への意志は、意味への意志の喪失により生まれるとされています。このうち、力の意志は、自己顕示・達成・支配などの欲求の結果と見ることができ、これは上位者が意思決定する際に生じ得るものです。一方、人間は必ず死ぬという有限性を有しますが、行動を起こした事実は過去の事柄になることによって固定化され、永遠に生きることができます。また、体験すること自体にも価値を見出し、特に避けられない苦悩を体験することが、それが固定化され永遠化されることで価値となるとされています。アウシュビッツ強制収容所を生き抜いたユダヤ人であったフランクルの人間性心理学は、仕事や人生の意味に迷った時に一つの指針を与えてくれるのではないのでしょうか。



フランクルの人間性心理学

(参照：フランクル V.E. (山田邦男訳)：意味への意思，春秋社，2002.7. など)